

チーム名：OSO
エントリー番号：【1】

応募するアイデアのタイトル

OSO

- 果てしなく続く青いボタン -

要旨

僕らは今、人生という果てしなく長い旅路の途中にいます。
旅に苦勞はつきもの。
だからこそ、かけがえのない感動を味わうことができ、
成長できるのです。

その感動をOSOに刻んでいきましょう。

OSOは自身の感動を振り返る場を提供する「ライフログシステム」です。
「時間駆動」と「Chance」という二つの仕組みを用いて、
旅の記録を支援します。

「時間駆動」はあなたの感動の瞬間を逃しません。

「Chance」は出会いのきっかけを作ります。

使い方は至って簡単です。

「旅の行く先々で青いボタンを押す。」

たったこれだけで、たくさんの旅のお土産がボタンに詰め込まれます。
家に持ち帰って、そのお土産とともに旅を振り返りましょう。



背景

人は昔から、自身の日々の行動を何かの媒体に記録してきた。日々の出来事や自身の記憶を文字で媒体に記録することは、向後や麻生らによると、①自身の体験の整理、②体験を経験化することによる自己の人格の発見、③社会的な発信、④それによるフィードバックの獲得、⑤自身の過去の経験との比較を通じての成長といった効能を有していると言える^{[1][2]}。

そして近年、情報技術の発展に伴い、人間の行いをデジタルデータとして残す「ライフログ」が注目を浴びている。これは、例えば「今、ミステリー小説を読んでいる」、「今から出かける」といった自身の体験を記録するものである。企業目線では、ユーザの行動履歴を分析することで、個人のニーズに合わせた新しく便利なサービスの提供が可能となると予想されており、総務省もこの動きに注目している^[3]。例えば、マイクロソフトではライフログの研究としてMyLifeBits Projectを推進しているが、これはPCを使う際に起こり得るすべての電子的な動作のトレースを目指しているものである^[4]。

しかし、ユーザの目線からすれば、単に「行動」をログとして記録するよりも、そこから自身で考えた「思考」をログとして記録する方が上記の①～⑤の情報の価値としては重要であると言える。つまり、ユーザ目線での成長を促す仕組みの提供が求められていると言える。以下に人生に彩りを与えるライフログシステムの提案を行う。

課題

提案を行う前に現状を把握するため、まず課題を述べる。現在、企業が研究・提供しているライフログサービスについては上記で述べたように、ユーザの思考をログとして記録するものではない。また、ユーザの普段の生活に密着しているwebサービスに「ブログ」と「SNS」が存在する。しかし、これらの既存のサービスをライフログとして使用するのは不十分である。これらのサービスをライフログとして使用する際の課題は以下の通りである。

時間的側面からの課題

● 自身の記憶に頼る記録

記録したいイベントを自身が記憶している必要があり、正確な時間や場所に限らずイベントの内容までも忘れてしまう可能性がある。

● リアルタイム性の欠如

まとまった文章の作成に時間がかかり、イベント中の投稿が困難である。後の投稿では、イベントの記録時間は記事を投稿した時間となってしまう、リアルタイム性に欠けていると言える。

グループ形成の側面からの課題

● カテゴリベースのブログ

神田によると、ブログは社会的関わりが薄く、社会からの見返りが少ない^[5]。これはキーワードに関する「カテゴリ」によりブログが分類され、ユーザ同士のグループ形成が固定されたものになるからである。また、見返りが少ないとユーザのモチベーション維持が困難になる可能性があり、書き続けることに対して敷居が高くなる。

● コミュニティベースのSNS

SNSの主な利用目的は、ユーザの集合である「コミュニティ」に向けた情報発信である。つまり、ユーザは自身の記録が特定の人々に見られているという感覚を常に持ちつつ、情報発信を行うことになる。自身の思考が重要であるライフログにおいて、このようなコミュニティの形成は不必要である。

なお、リアルタイム性に優れているtwitterもSNSとして利用されている^[6]のが主でありライフログに適さない。

目的・アプローチ

上記の二つの課題（時間及び、グループ形成）を解決し、自身の成長を促すライフログシステムを提案する。具体的には、①『時間駆動型』及び②『Chance』という二つの仕組みを用いて解決を目指す。

①『時間駆動型』について説明する。時間駆動型とは時間的側面から、イベントの記録における情報を整理する仕組みである。近年、コンテンツ主導のサービスが蔓延しており、時間という概念が疎かにされがちである。したがって、我々は時間に着目し、情報の整理を行った。キーワードは「タイムラグを埋めること」と「付箋をつけること」である。

まず前者について説明する。ブログやSNSの記事投稿では投稿時間（記事）と発生時間（実イベント）の二つの時間軸が存在している。例えば、先週に起きたイベントについて記事を投稿する場合、投稿時間はその投稿を完了した時間になってしまう。これはユーザにとって、イベントの想起の妨げになる。そこで、ログの投稿時間をイベントの発生時間に合わせることで、二つの時間軸を統一し、ユーザのイベントの想起を援助するとともにログの価値を高める。これがタイムラグを埋めるということである。

次に後者について説明する。今しているイベントの時間や今何をしているかの単純な記録（イベントにおける情報）と、そこから何を考えたかという思考（イベントにおける思考）の記録を同時に行うツールは、起動や文字を打つ作業が面倒であるため、何かに夢中である際、ライフログをとることが困難である。例えば、重大な会議の時にtwitterを起動し、つぶやくことはできないであろう。もし、つぶやけたとしても、端末を操作する動作は周りに良い印象を与えない。よって、単純かつ手軽に扱えるアナログボタンを押すことでイベントにおける情報を瞬時に記録し、その後、空いた時間Web上でイベントにおける思考の記録を行う。言い換えるなら、自分の人生に付箋を貼り、後にその付箋を見ながら思考を伴った記事投稿を行うようなものである

②『Chance』について説明する。グループ形成の側面からの課題を解決するために本ライフログシステムではその時々イベントをきっかけとする『Chance（偶然の出会い）』と呼ぶグループを形成する。ChanceはブログのカテゴリやSNSのコミュニティのように互いの関係性が固定化されるものではなく、自身の行動から主体的に生まれては消える流動的な関係性である。ChanceのイメージをFig1に示す。これは同じイベントを経験したであろうユーザ同士で形成され、日本古来の教えである「袖振り合うも多生の縁」のような「ほどよい」関係性を生む。この関係性は、人に縛られることなく、自身の感じたことを感じたままに書き続けるということを実現させる。また、Chanceの他ユーザによって書かれた投稿は、イベントの想起のトリガーとなり、自身の新たな思考のヒントにも繋がる。つまり、Chanceによってユーザは、ストレスフリーな関係性を容易に構築できるのである。

上記の仕組みを用いて、ブログでもSNSでもない新たな時間駆動型ライフログシステム「OSO」の提案を目的とする。

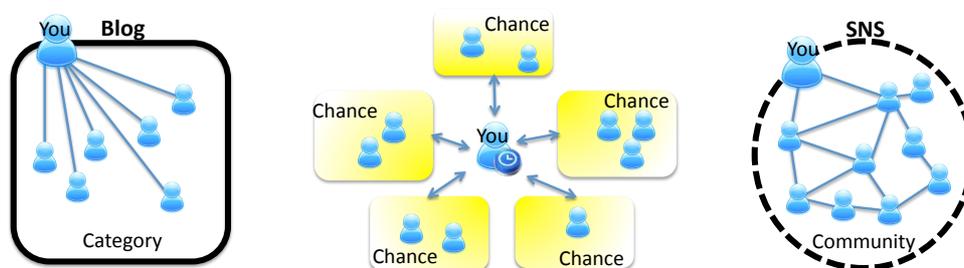


Fig1 Chanceのイメージ（ブログ、SNSとの比較）

機能概要

本ライフログシステム「OSO」は、現実世界のイベントを記録するための「OSO Button」、イベントに関する情報を閲覧・発信するブログサービスである「OSO Web App」という二つのツールで構成される。

OSO Buttonは持ち歩き可能であり、手軽にイベントの記録を行うことができる。もちろんアプリ起動は不要であり、ON状態にすることで記録したいイベントの時間、場所情報を記録する。また、その際ON状態になっている他ユーザとすれ違えば当事者同士のユーザIDが交換される。

OSO Web Appでは、OSO Buttonに記録された情報を同期し、OSO Buttonを押した場所、すれ違った他ユーザが自身のマイページに時系列順で表示される。そして、自身のイベントの時間と場所についての記事の投稿が行える機能を提供する。また、すれ違ったユーザの投稿を閲覧可能にする。

以上の機能の情報の流れをFig2に示す。

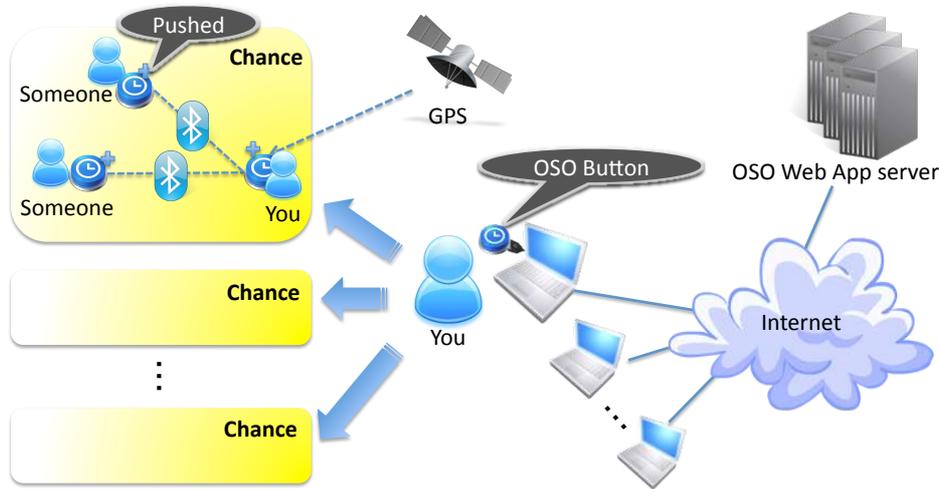


Fig2 情報の流れ

機能

本システムの機能は①持ち歩くOSO Buttonの機能と②OSO Web Appにおける機能の二つに分類される。本システムの機能一覧を示した後、各機能の詳細を示す。

前提条件

本システムでは、USB接続によるデバイスとコンピュータの同期作業、ウェブ上における操作を必要とする。そのため、ユーザは基本的なコンピュタリテラシ能力を持つことが前提条件となる。

機能一覧

本システムは、①持ち歩くOSO Buttonの機能として「時間・場所 記録」、「すれ違いプロフィール 交換」がある。そして、②OSO Web Appにおける機能として「記事投稿」、「Chance Membersの投稿記事閲覧」がある。機能一覧をTable1に示す。

Table1 本システムの機能一覧

本 シ ス テ ム の 機 能	
① 持ち歩くOSO Buttonの機能	② OSO Web Appにおける機能
<ul style="list-style-type: none"> 時間場所 記録 すれ違いプロフィール交換 	<ul style="list-style-type: none"> 記事投稿 Chance Membersの投稿記事閲覧

各機能の詳細

Table1に示した機能の詳細を以下に示す。

① 持ち歩くOSO Buttonの機能

● 時間・場所 記録

OFF状態のOSO Buttonを押すとON状態となり、その瞬間の時間と場所がOSO Buttonに記録される。場所の取得はGPSを利用する。シークレットモードにより、場所情報を記録しないこと、及び、すれ違いプロフィール交換機能を停止することもできる。もう一度OSO Buttonを押すとOFF状態となり、

その瞬間の時間が再度OSO Buttonに記録される。この記録された時間・場所情報により、②の「記事投稿」が実現される。「時間・場所記録」のイメージをFig3に示す。



Fig3 「時間・場所記録」のイメージ

● すれ違いプロフィール交換

Bluetooth通信接続範囲内に存在する二台のON状態のOSO Buttonは自動的にペアリングされ、本システムに登録されたユーザIDを交換、保存する。この交換されたユーザIDにより、②の「Chance Membersの投稿記事閲覧」が実現される。

② OSO Web Appにおける機能

OSO Web Appはタイムライン部とマップ部で構成される。タイムライン部には①の「時間・場所記録」によって保存された時間が表示される。表示された時間をPush Time、すれ違いユーザをChance Membersと呼ぶ。また、マップ部には①の「時間・場所記録」によって保存された場所が地図に表示される。その場所をPush Placeと呼ぶ。OSO Web Appの全体イメージをFig4に示す。

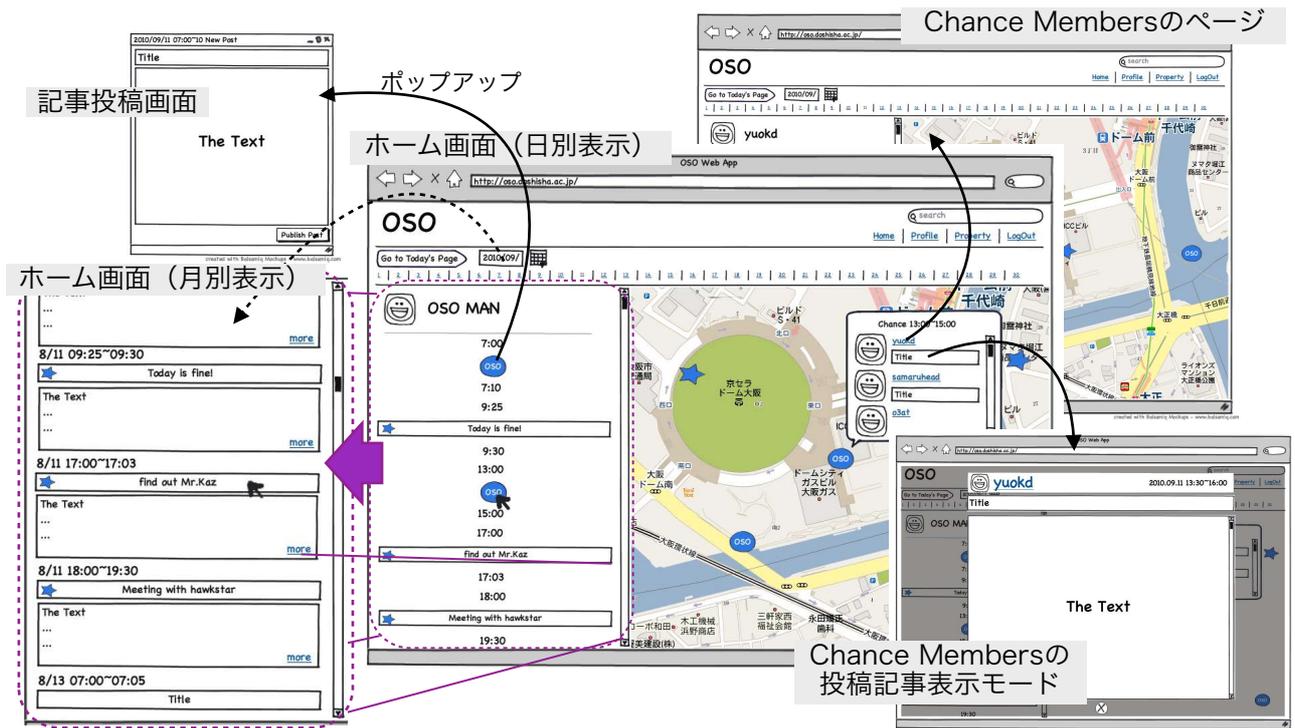


Fig4 OSO Web Appの全体イメージ

● 記事投稿

OSO Web Appのタイムライン部に表示されたPush Time下部のボタンをクリックすると、記事投稿画面がポップアップウィンドウで表示される。件名、本文を入力した後、投稿ボタンをクリックすると記事投稿が完了される。そして、投稿が完了された記事は閲覧・編集できる。

● Chance Membersの投稿記事閲覧

OSO Web Appのタイムライン部に表示されたPush Timeをマウスオーバーすることにより、Push Timeに対応したマップ部のPush Placeがフォーカスされ、Chance Membersが吹き出しに表示される。そのChance Membersのユーザ名を選択すると、そのユーザのページへ遷移する。なお、閲覧できる

ページはすれ違った日のみである。また、ユーザ名の下に表示された投稿記事を選択すると、投稿記事表示モードで表示される。

考察

近年、情報が溢れ、感動の感覚が麻痺してきている。したがって、成長のきっかけである「いつ心が動いたか」という自身の心の機微を認識し、瞬時に記録する必要がある。しかし、起動を有したり、文字等の入力を必要とする端末やアプリケーションではそれが阻害される。例えば、旅の中で何かに夢中になっている際、端末の起動や文字入力によって記録を行う際の煩わしさは誰しもが感じたことのある感覚であろう。その感覚が原因で自身に生じた心の機微の記録を疎かにし、拳句の果てに忘れてしまうという結果に陥ることがある。このようなことから、我々は記録のハードルを下げる為に、手軽で最も単純な「押す」という行為だけでイベントの記録を実現するアナログボタンを提案した。また、「時間駆動」は旅の感動の再認識を可能にする強力な仕組みである。なぜなら、アナログボタンによって実現された感動の記録の手軽さによって、既存のツールと比べ格段にリアルタイム性が向上するからである。そして、その感動をOSO Web Appで表現し、「Chance」によって得られた、同じ時と場所で同じイベントを過ごしたであろう他人の意見を踏まえて語る。つまり、なぜ感動し押したかということ自身で振り返って考え、記すのである。また、Chanceは生まれては消えるグループなので、自分の気持ちを他人に縛られず素直に書ける。以上より、「OSO」は時間駆動でログを記録し、流動的なグループ形成Chanceを通じて成長を促す、ライフログシステムのあるべき姿と言える。

おわりに

本システムのコンセプトは「果てしなく続く青いボタン」である。この「果てしなく続く」という言葉と「青」という色は非常に関係性の深い色であると言える。以下に説明する。

初めに、自然に存在する肯定的なイメージに着目すると、多くの人は「緑」や「青」と述べる。まず、緑と言えば草木である。しかし、緑を持つ草木は枯れる。いつかは消えてしまうのである。では、青とは何だろうか。例として青色のイメージを挙げてみると、空、海がある。これらは全て果てしなく続いていく。空は高く、海は広く、消えること無く残り続ける。それこそ、「永続性」をイメージするのである。私たちはこの永続性というイメージを青色としてボタンに込めた。

では次に、ボタンとは何であろうかを述べる。ボタンは結果を生む。ボタンの責務は「押すことにより、何か結果を出力すること」である。それこそ単純に「押したら終わり」の仕組みである。上記のイメージによれば緑色のようなものだ。しかし、私たちの青いボタンは単純に結果を生み、消えては行かない。押すことはきっかけにすぎない。つまり、自身を成長させ、その結果を永く連鎖させる仕組みを作ることを目標にした。そして最終的に練られた仕組みが、本提案システム「OSO」である。

私たちはOSOにより、自身のログをとり続けるという行為の敷居を低くする仕組みを提供する。Chanceにより出会った人たちと、他のSNSサービスで繋がることも後の自分次第である。旅中で何気なく押したボタンが運命の転機となる出会いを生むかもしれない。もう一度言う。本書は青いボタンを起点にして、人生という旅に彩りを与えるライフログシステムの提案である。OSOを通じて、多くの人が自分自身とより向き合い、成長して行くことを切に願って止まない。

参考文献

- [1] 向後千春：きょうから日記を書いてみよう3、汐文社、東京（2004）
- [2] 麻生武：「見る」と「書く」との出会い、新曜社、東京（2009）
- [3] 総務省 利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会：
http://www.soumu.go.jp/menu_sosiki/kenkyu/11454.html
- [4] Gordon Bell、Jim Gemmell：ライフログのすすめ、早川書房、東京（2010）
- [5] 神田敏晶：twitter革命、ソフトバンク新書、東京（2009）